



升川 勝作

升川 勝作（ますかわ しょうさく）

升川倉松氏の次男として、明治6年（1873）1月17日、北口村横町（現河北町谷地）に生まれました。父倉松氏は明治14年弥勒寺下路より、岩清水まで木管水道の布設工事を請負ったことが「河北町上水道史」に掲載されています。

谷地学校を卒業後、兄2代目倉松氏と共に父の事業に従事しました。「橋の升川」の名の如く、谷地道海橋をはじめ、多くの橋を施工し、また山形師範学校新築など多くの工事を請負いました。

明治40年（1907）3月、兄倉松氏より代表者を継承し、谷地道海に「升川組」の看板を掲げ、谷地町上水道工事や県会議事堂新築工事など、多くの公共工事を施工しました。

最上川の舟運によって栄えてきた我が町も鉄道の発達とともに衰退する中、升川勝作氏は谷地が取り残されるのを危惧し谷地神町間に独力で鉄道の敷設権を取得し、県内初の私鉄の誕生となる「いもこ列車」を走らせて、村山地方の人々に多大な便宜を与えました。

当地方に於ける養蚕、製糸業にも力を投じました。更に、個人出資で各地に耕地整理組合を設立し、広大な水田を開拓、揚水場や自家発電所も建設しました。近代土木建築請負業の草分けであり、先見性に富んだ事業家でありました。

升川勝作氏は「世の為になる仕事をして、人々に喜んでもらって、それで“おまんま”を食べさせてもらうんだ」という信念のもとに生きた人であり、今日の郷土の発展の礎を築こうとした努力と信念の人であるといえます。